

問7 次の文は、乳児期の微細運動の典型的な発達に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A ガラガラなどのおもちゃを両手に持たせると、持っていられるようになるのは3～4か月頃、自発的におもちゃに手を伸ばすようになるのは4～5か月頃である。
- B 6～7か月頃には、小さな物を5本の指を全部使って引き寄せてつかもうとし、8～9か月頃には、親指と人差し指の2本だけでつまんで持ち上げることができるようになる。
- C 6か月頃には、両手に持った物を一方の手に持ち替え、また両手で持って、次にはもう一方の手へという持ち替えを盛んに行う。
- D 満1歳を過ぎると、ティッシュを繰り返し取り出したり、複数の積み木を寄せ集めたりすることがみられるようになる。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問8 次の文は、乳児の泣きへの対応に関する記述である。( A )～( D )にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

乳児は泣くことで「不快」と訴えると、保育者が状況を「快」に変えるという繰り返しが( A )につながる。周囲の安全を全身で感じ保育者の温かい対応に喜び、次々と( B )を出そうとする。その( B )を確実に読み取り、適確に応えることが人と関わろうとする意欲を育むことになり、( C )と呼ばれる生涯の心の在り方の基本が根づくことになる。重要なことは、乳児の( B )に応えることが保育者の喜びともなることであり、それは快感情の共有であり、( D )の原型である。

【語群】

ア 安心感	イ 充実感	ウ サイン	エ 叫喚	オ 基本的信頼
カ 自尊心	キ ターン・テイキング	ク 会話		

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | オ | キ |
| 2 | ア | ウ | オ | ク |
| 3 | ア | エ | カ | ク |
| 4 | イ | ウ | オ | キ |
| 5 | イ | エ | カ | キ |

A B C D  
ア ウ オ キ (ウ)  
7(キ)